

平成 1 2 年度試験研究成果

区分	普及	題名	ぶどう「安芸クイーン」及び「ノースレッド」の花振るい防止法 - メピコートクロリド液剤による花振るい防止 -			
〔要約〕ぶどう「安芸クイーン」、「ノースレッド」に対して、メピコートクロリド液剤（商品名フラスター液剤）の花振るい防止効果が認められた。						
キーワード	ぶどう	安芸クイーン	ノースレッド	花振るい防止	園芸畑作部 果樹研究室	

1. 背景とねらい

ぶどうは開花期の気象条件、樹勢等により花振るいを起こすことがある。花振るいは生産量に直接影響することからその防止対策は重要である。

メピコートクロリド液剤は「紅伊豆」の花振るい防止効果があることから平成 5 年度の参考事項として紹介しているが、「安芸クイーン」及び「ノースレッド」に対しても花振るい防止効果が認められた。

また、平成 12 年 6 月 29 日付の適用拡大により、「安芸クイーン」及び「ノースレッド」でも使用可能となったことから、平成 13 年度成長調整剤使用基準に採用した。

2. 技術の内容

- (1) 薬剤名 商品名 : フラスター液剤
有効成分: メピコートクロリド 44%
毒性 : 人畜毒性 普通物、魚毒性 A 類相当
薬剤の性状: 淡黄色透明水溶性液体

(2) 農薬使用基準

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法
ぶどう 安芸クイーン	着粒数増加	500 倍	150 ㍓/10a	新梢展開葉 7 ~ 9 枚時	1 回	散布
ぶどう ノースレッド				新梢展開葉 8 ~ 10 枚時		

3. 普及上の留意事項

- (1) 強樹勢で花振るいの強い園地を使用することにより、結実が向上する(表 1、3)。特に「ノースレッド」では、樹勢が安定化している場合使用すると、過着果となることがあり(表 4)、摘粒作業に労力がかかるため、強樹勢で例年花振るいの多い場合のみの使用とする。
- (2) 本剤の散布による果実品質への悪影響はない(表 2、表 5)が、着粒数増加による着果過多は着色の低下(表 6)につながるため、適正着果量を厳守する。
- (3) 周辺作物にかからないよう注意する。
- (4) 展着剤は不要。
- (5) その他栽培に関する留意事項は、「安芸クイーン」については平成 10 年度研究成果を、「ノースレッド」については平成 5 年度指導上の参考事項を参照のこと。

4. 技術の適応地帯

県下全域

5. 当該事項に係る試験研究課題

- 〔果樹 3〕 - 1 - (2) - イ ぶどうその他果樹に対する植調剤
- (ア) ぶどうの結実促進

6. 参考文献・資料

- 平成 9 ~ 11 年度 果樹試験成績書(一部未定稿)
平成 9 ~ 11 年度 落葉果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績収録

7. 試験成績の概要

表1 「安芸クイーン」に対するフラスター液剤の着粒数増加効果 (平成12年度)

区 ¹⁾	処理時の状況(6/1)			結実状況(7/17) ³⁾	
	新梢長 (cm)	葉枚数 (枚)	花穂長 ²⁾ (cm)	有核粒数 (粒)	無核粒数 (粒)
フラスター液剤 500倍処理	49.4	8.5	10.8	24.2	7.6
無処理	45.4	8.1	10.1	11.3	8.9

- 1)各区 20新梢 20果房調査。
2)花穂長は花穂整理前調査。開花直前花穂を13段に整理。
3)結実状況は摘粒前調査

表2 フラスター液剤の散布が「安芸クイーン」の果実品質に及ぼす影響 (平成12年度)

区	調査房数 (房)	平均房重 (g)	平均粒重 (g)	糖度 (Brix %)	酸度 (g/100ml)	含核数 (個)
フラスター液剤 500倍処理	10	353	14.1	19.1	0.31	1.3
無処理	10	205	12.5	18.9	0.32	1.1

表3 「ノースレッド」に対するフラスター液剤の着粒数増加効果 (平成10年度)

区 ¹⁾	調査房数	着粒密度別の分布(%) ²⁾					着粒密度 3以上の 割合(%)
		5 密	4 竹密	3 中	2 竹疎	1 疎	
フラスター液剤 500倍処理	122.5	9.7	23.2	53.1	12.7	1.5	86.0
無処理	131.5	0.8	6.7	43.3	42.8	6.5	50.8

- 1)1区1樹2反復。着粒密度は収穫前(8/7)調査。

表4 「ノースレッド」に対するフラスター液剤の着粒数増加効果 (平成11年度)

区 ¹⁾	処理時の状況(6/4)			着粒密度別の分布(%) ²⁾					着粒密度 3以上の 割合(%)
	新梢長 (cm)	葉枚数 (枚)	花穂長 ¹⁾ (cm)	5 密	4 竹密	3 中	2 竹疎	1 疎	
フラスター液剤 500倍処理	43.2	9.2	7.2	7.7	57.7	34.6	0.0	0.0	100.0
無処理	39.2	9.4	6.6	0.0	6.7	33.3	53.3	6.7	40.0

- 1)各区2果着穂している新梢30新梢調査。花穂長着粒密度は第1花穂調査。
2)着粒密度は収穫時(9/29)調査。

表5 フラスター液剤の散布が「ノースレッド」の果実品質に及ぼす影響 (平成11年度)

区 ¹⁾	平均房重 (g)	平均房長 (cm)	平均粒重 (g)	糖度 (Brix %)	酸度 (g/100ml)	着粒数 (粒)	含核数 (個)
フラスター液剤 500倍処理	243	14.8	3.7	17.6	0.30	63.5	2.1
無処理	201	14.7	4.2	18.2	0.34	47.2	1.8

- 1)各区30房調査。

表6 フラスター液剤の散布が「ノースレッド」の着色に及ぼす影響 (平成11年度)

区 ¹⁾	着色程度別の分布(%)				
	5 濃	4	3 中	2	1 淡
フラスター液剤 500倍処理	0.0	76.9	23.1	0.0	0.0
無処理	16.7	73.3	6.7	3.3	0.0

- 1)各区30房調査。